

註

第1章

- (1) 採掘製造、流通往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究会 (2010)『都市の文化と景観』同成社。

第2章

- (1) 鳥津光夫・神蔵勝明 (2011)『離島 佐渡』、106～108頁。
- (2) 伊藤邦男 (1982)『佐渡の植物』。
- (3) 笹川通博 (2001)『新潟県佐渡における植物分布図集 暖温帯性常緑植物』新潟県植物分布調査収録4、新津植物資料室。
- (4) 大場達文 (1977)『亜高山帯と高山帯』『日本の植生』学習研究社。
- (5) 相川町教育委員会 (1975)『相川の文化財』。
- (6) 前掲註5文献。
- (7) 前掲註5文献。
- (8) 前掲註5文献。
- (9) 前掲註5文献。
- (10) 前掲註5文献。
- (11) 相川町教育委員会 (2002)『相川町の文化財』改訂版。
- (12) 佐渡高等学校同窓会 (1986)『佐渡国略記』上巻。
- (13) 佐渡郡教育会 (1935)『佐渡年代記』。
- (14) 佐渡高等学校同窓会 (1997)『佐渡名勝志』。
- (15) 相川町史編纂委員会 (1995)『相川の歴史』通史編 近・現代、相川町、434～438頁。
- (16) 高田備寛 (1929)『佐渡四民風俗』。
- (17) 佐渡郡教育会 (1941)『佐渡風土記』。
- (18) 佐渡高等学校同窓会 (1986)『佐渡国略記』。
- (19) 麓三郎 (1956)『佐渡金銀山史話』三菱金属鉱業。
- (20) 相川町史編纂委員会 (1995)『相川の歴史』資料集6 相川県史、相川町、713頁。
- (21) 相川町に金泉村、二見村 (ともに昭和29年 = 1954)、高千村、外海府村 (ともに昭和31年 = 1956) が合併した。その後、昭和32年 (1957) に、外海府築の大字真更川、北鶴島、願は両津市へと分離した。こうしたことから、国勢調査 (5年間隔で実施) における統計上は、1950年と1955年のあいだに急激な増加がみられる。

第3章

- (1) 神蔵勝明・小林巖 (1993)「金鉱床のできかた」『図説佐渡島 自然と歴史と文化』佐渡博物館。
- (2) 野中準他編 (1971)『大日本租税志』2、思文閣。
- (3) 佐渡市・佐渡市教育委員会 (2010)『佐渡金銀山 鶴子銀山跡分布調査報告書』。
- (4) 佐渡市教育委員会 (2008)『佐渡金山遺跡 (上相川地区) 調査報告書』。
- (5) 佐渡高等学校同窓会 (1986)『佐渡国略記』上巻。
- (6) 佐渡郡教育会 (1974)『佐渡年代記』。
- (7) 前掲註5文献。山本修之助編 (1973)『撮要佐渡年代記』佐渡叢書4、佐渡叢書刊行会
- (8)『佐渡国略記』『佐渡年代記』など江戸時代に編纂された史書の多くは慶長6年 (1601) 発見説をとる。一方で『佐渡年代記』に「但去年 (筆者註：慶長5年 = 1600) 河村彦左衛門検地の羽田村刈帳に金山町と云所あり、此羽田村は今の相川なれば、其の頃より金山ありし故名付しも知らず」とあり、前年には上相川に集落が成立していたことが窺える。また、『越佐史料稿本』には、慶長元年の記事として「上相川岩崎四方より鉱石出る」という記述がある。
- (9) 斎藤長三『佐渡年代記』慶長7年条、史林雑誌社、1895～1897年。

- (10)『佐渡国略記』による。なお、『佐渡相川志』では、羽田村の軒数について「十四、五軒」とある。
- (11) 佐渡では鉱山の金穿を大工といい、普通の大工を番匠又は家大工と呼んで区別した。
- (12) 最初は「山主」「山仕」などと称し、元禄以降「山師」となったが、ここでは便宜上「山師」に統一する。
- (13) 佐渡市教育委員会 (2008)『佐渡金山遺跡 (上相川地区) 調査報告書』。
- (14) 田中圭一 (1986)『佐渡金銀山の史的研究』刀水書房。
- (15) この時、同地を関原宗清より500両で購入したという (斎藤長三『佐渡年代記』史林雑誌社、1895～1897年)。
- (16) 斎藤長三『佐渡年代記』史林雑誌社、1895～1897年。
- (17) 最初、慶長9年 (1605) に材木町番所が設置され、慶長11年 (1607) に羽田番所、大間番所が設置された。なお、柴町番所の設置も慶長年間とされる (佐渡高等学校同窓会 (1986)『佐渡国略記』)。
- (18) 佐渡高等学校同窓会 (1986)『佐渡国略記』。
- (19)『慶長年録』(史籍研究会 (1986)『慶長見聞録案紙・慶長日記・慶長年録・元和年録』内閣文庫所蔵史籍叢刊65、汲古書院)。
- (20) これを「一の山仕」と称する。慶長18年 (1613) には、奉行田辺十郎左衛門がさらに37人の山仕を呼び寄せたが、これは「二の山仕」と呼んで区別した。
- (21) 水銀と金銀が結びついてアマルガムを形成する性質を利用した製錬方法。
- (22) 味方但馬は、佐渡のほか摂津多田銀銅山、奥州南部金山、伊勢の銀山などの経営も行っており、徳川家康に謁見して時服を賜っている。
- (23) 元来田辺姓であったが、大久保長安の配下となり大久保山城と称した。長安が死後に家康に断罪されたこともあり、旧姓に復した。
- (24) 1荷 = 5貫目 (18.75kg) であり、1000荷は18.75tとなる。
- (25) 但し、萩原重秀は着任当初の元禄4年 (1691) 4月から7月にかけて佐渡に在任しただけで、その後は在府のまま用人や留守居役を佐渡に派遣し、江戸から指示を送った。
- (26) 静野は曾根五郎兵衛奉行の用人土田勘兵衛から追手流算術を習い、追手右衛門とも称した。また、静野はこれまで買石が採算にあわないとして捨てていた品位の低い鉱石を水車をもって粉成すことを献策し、相川一町目と二町目の間の川通りに水車を設置し、鉱石の善悪を問わず引き受けた。
- (27) 定免制は享保3年 (1718) に定められ、切り替えのたびに年貢は増徴された。
- (28) 寛延元年 (1748) 検見法が復活し、奉行所は寛延元年 (1748) に5,150石の年貢増徴、翌2年 (1749) さらに3,700石余の年貢増徴を一方的にいい渡した。
- (29) 奉行、組頭に次ぐ重職で、地役人の成り得る最高職であった。寛永12年 (1635) に御判方役として設置され、正保期に留守居役、正徳3年 (1713) に月番役と改称され、宝暦8年 (1758) に広間役となった。
- (30) 無宿人は宗門人別帳が除籍された者を指す。軽犯罪を犯した者もいたが、犯罪者というよりむしろ住所不定無職の者で、都市の治安維持のために拘禁されて佐渡へ送られた。
- (31) 水替は、17世紀初めから18世紀半ばにかけて排水にスポン樋や水上輪を利用していた頃は「樋引」と称した。
- (32) 金沢奉行は文化13年 (1816) 長崎奉行に転出したが、その際相川の町民達に引き続き佐渡奉行となるよう懇願され、幕府に嘆願書が提出。
- (33) 宝暦6年 (1709)、石谷奉行の命により、島内各村の生活ぶりを地役人高田備寛が書き上げて提出した書物。その後天保11年 (1840) に川路奉行の命を受けた地役人原田久通が追補した。

- (34) 田中はすでに文化2年(1805)、同志と共に広業堂を開き、経書の素読・輪読をおこなっていた。
- (35) 実際には田畑を与えられた訳ではなく、今後自ら開墾するものとされた。そして、その間の措置として家族1人につき1日5合の米を支給した。
- (36) 岩本擴(1927)『相川町誌』相川町教育会。
- (37) 『明治前期財政経済史料集成』(大蔵省)の「歳入出決算報告書」によれば、政府が明治元年から明治8年まで炭坑を含む鉱山全体に投入した費額3,864,592円379銭の内、佐渡には864,439円528銭(22.4%)が投入されている。これを1,038,606円153銭が投入された生野鉱山と合わせると、鉱山に投資した費用の49.2%を両鉱山に投資しており、政府がいかに佐渡・生野両鉱山を重視したかが窺える。
- (38) ガワーは慶応4年(1868)の佐渡鉱山視察の後、鉱山再開策をまとめ、レポートとして新政府に提出していた。
- (39) 水銀を利用したアメリカ式の鍋混汞法を導入した。なお、生野鉱山はフランス式の樽混汞法を導入した。
- (40) 『大日本維新史料稿本』。
- (41) 初期の史料では、「大堅坑」となっている。大「堅坑」のある場所の地名がやがて「大立」となり、やがて「大立堅坑」と称するようになったものと思われる。
- (42) 明治26年(1893)2月25日発行の『日本鉱業会誌』において、佐渡鉱山課長神田礼二は、大立堅坑の鉱石1t搬出の費用を5〜6銭と試算し、江戸時代(6円)に比較して100倍効率的になったと述べている。
- (43) 「旧相川県文書」(新潟県立文書館所蔵)。
- (44) 「旧相川県文書」(新潟県立文書館所蔵)。
- (45) この時、下相川村(戸数67戸、人口336人)は金泉村に編入された。
- (46) 「新潟新聞」(明治26年(1893)2月17日付)。
- (47) 「新潟新聞」(明治21年(1888)5月23日付)。
- (48) 相川町に6万9,000円、下相川のある金泉村に1,000円が下賜された。なお、相川町の明治29年度(1896)の決算総額は5,462円であり、恩賜金は年間予算の12.6分分に相当した。
- (49) これについては、明治36年(1903)の第5回内国勲業博覧会に際して作成された『佐渡鉱山説明書』に詳しく述べられている。
- (50) 『佐渡新聞』(大正4年(1915)10月5日付)。
- (51) 「旧相川町の職業別有業者数(大正元年)」(相川町史編纂委員会(1971)「商業、金融の発展」『佐渡相川の歴史』通史編 近・現代、434頁所収)。
- (52) 坑内の経営は山師が行ったのに対し、選鉱・製錬の経営は買石によっておこなわれた。
- (53) 麓三郎(1956)『佐渡金銀山史話』三菱金属鉱業株式会社。
- (54) 前掲註53文献。
- (55) 佐渡高等学校同窓会「舟崎文庫」所蔵
- (56) 田中圭一(1986)『佐渡金銀山の史的研究』刀水書房。
- (57) 川路聖謨(1973)『鳥根のすさみ』東洋文庫。
- (58) 高田備寛(1929)『佐渡四民風俗』。
- (59) 前掲註53文献。
- (60) 磯部欣三(1972)「佐渡金(銀)山の労働力—主要な給源地に関する考察」『佐渡—島社会の形成と文化』雄山閣出版。
- (61) 前掲註53文献。
- (62) 前掲註53文献。
- (63) 前掲註53文献。
- (64) 平井栄一(1950)『佐渡鉱山史』大平鉱業佐渡鉱業所。
- (65) 本間寅雄「大田部屋」『佐渡郷土史事典』129頁。
- (66) 田中圭一(1982)『島の自叙伝』静山社。
- (67) 本間寅雄とは磯部欣三の実名。
- (68) 廣瀬貞三(2000)「佐渡鉱山と朝鮮人労働者」『新潟国際情報大学文化学部紀要』3、1〜29頁。
- (69) 佐渡郡教育会(1935)『佐渡年代記』上巻。
- (70) 相川町史編纂委員会(1983)「金銀山の町」『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書、279〜348頁。
- (71) 前掲註70文献。
- (72) 前掲註70文献、「相川地区元禄検地帳」、577〜674頁。
- (73) 田中圭一(1968)「相川中町々地理之図」『佐渡相川志』佐渡高等学校同窓会、115〜144頁。
- (74) 前掲註73文献。「紙漉・素麺・麴屋・味噌・桶大工并石工」、185頁。
- (75) 前掲註70文献、「相川地区近世文書」、349〜575頁。
- (76) 前掲註70文献。
- (77) 前掲註69文献。
- (78) 佐渡市教育委員会(2009)『佐渡金銀山 吹上海岸石切場跡調査報告書』。
- (79) 新潟県神職会佐渡支部(1925)『佐渡神社誌』15頁。
- (80) 前掲註73文献、「相川ノ始り并金銀山ノ起り」、85頁。
- (81) 佐渡高等学校同窓会(1986)『佐渡国略記』上巻。
- (82) 前掲註81文献。
- (83) 前掲註80文献。
- (84) 前掲註72文献。
- (85) 佐渡地理研究会(1976)「海岸段丘の成立」『佐渡誌—島の風土とくらし—』、165〜168頁。
- (86) 前掲註70文献。
- (87) 前掲註81文献。
- (88) 前掲註70文献。
- (89) 前掲註73文献。
- (90) 前掲註72文献。
- (91) 平山敏治郎・竹内利美・原田伴彦(1969)『佐渡四民風俗』上巻 追加共『日本庶民生活資料集成』9、三一書房、117〜142頁。
- (92) 前掲註70文献。
- (93) 前掲註91文献。
- (94) 前掲註69文献。
- (95) 前掲註70文献。
- (96) 相川町史編纂委員会(2002)『佐渡相川郷土史事典』、530頁。
- (97) 前掲註70文献。
- (98) 前掲註73文献。
- (99) 前掲註91文献。
- (100) 前掲註70文献。
- (101) 前掲註70文献。
- (102) 西川明雅・原田久通(1936)『佐渡年代記』中巻、佐渡郡教育会、202頁。
- (103) 前掲註102文献。
- (104) 文政13年(1830)、鹿伏御薬園守中川栄昌が江戸小石川御薬園へ行き、菓草14種、京都曲直瀬養楽院からも朝鮮人参1株と実3粒ほか菓草3種をもらい受けて帰国するという記事がある(前掲註102文献)。
- (105) 佐渡水産組合(1908)『佐渡案内』。
- (106) 岩木抃(1901)『佐渡名勝』佐渡新聞社。
- (107) 石瀬佳弘(2000)「佐渡の観光開発」『近藤福雄生誕100年記念 大正・昭和佐渡写真帖』郷土出版社、225頁。
- (108) 北見継仁(2002)「磯うつ波」『佐渡相川郷土史事典』相川町、77頁。
- (109) 前掲註51文献、「揺籃期の観光」584頁。
- (110) 門田岳久(2010)「宗教」の資源化・商品化・再日常化『国立歴史民俗博物館研究報告』156、201〜243頁。
- (111) 新潟合同自動車株式会社(1936)『観光佐渡の遊覧バス』。
- (112) 山本幸作(1936)『佐渡名勝史』山本商会出版部。
- (113) 植木八百吉(1938)『佐渡米と観光番附』。
- (114) 朝日新聞社(1958)『佐渡』アサヒ写真ブック72。
- (115) 日本交通公社出版事業局(1988)『越後路・佐渡'88-'89』るるぶ情報版。
- (116) 岩本通弥(2004)「フォークロリズムと文化ナショナルイズム—現代日本の文化政策と連続性の希求—」『文化政策・伝統文化産業とフォークロリズム—「民俗文化」活用と地域おこしの諸問題—』平成13〜15年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書。

- (117) 石村勝郎 (1976)『新石見銀山物語』石見銀山遺跡研究会。
- (118) 西川明雅・原田久通 (1974)『佐渡年代記』佐渡郡教育会。
- (119) 田中葵園 (1816)『佐渡志』佐渡叢書2。
- (120) 萩野由之 (1927)『佐渡人物志』佐渡郡教育会。古川友八の先祖平助は延宝2年(1674)に流されてきた流人である。正徳5年(1715)に赦免になったが、相川に住み振矩師として働いた。
- (121) 岩本擴 (1927)『相川町誌』相川町教育会。
- (122) 鉦山用具として羽口のほか竹流台も作った。(佐渡市立相川郷土博物館 (2008)『羽口屋伊藤甚兵衛窯』)
- (123) 高田備寛 (1929)『佐渡四民風俗』。金太郎の焼物技術は、会津方面で習得したと考えられる。(佐渡市立相川郷土博物館 (1986)『金太郎窯』)
- (124) 註 121 文献。
- (125) 註 123 文献。
- (126) 松浦武四郎 (1847)『佐渡日誌』北海道出版センター (2009年復刻版)。
- (127) 佐渡と限定したのは、木綿布を使用しないオクソザックリ・クサザックリという衣料が石川県他に存在し、サキオリ・サックリという用語が、布を裂いて織ることより以前から使われているからである。佐渡では木綿布を使わないサキオリ資料は、現在認められていない。
- (128) 船登源兵衛家文書。
- (129) 高田備寛 (1929)『佐渡四民風俗』。
- (130) 川路聖謨 (1973)『鳥根のすさみ』東洋文庫。
- (131) 九学会連合佐渡調査委員会 (1964)『佐渡』。
- (132) 相川町浄土宗永弘寺(現・永宮寺)第12世松堂(元禄8年～明和9年=1695～1772)が60歳頃著したものとされる。
- (133) 山本修之助編『佐渡叢書』5所収。
- (134) 中谷扶美子 (2013)『現代社会における寺院の現状と文化資源としての今後に関する一考察—鉦山都市相川における寺院の記憶継承の提案』2012年度筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻修士論文、79頁。
- (135) 山本修之助編 (1974)『佐渡国寺社境内案内帳 上』『佐渡叢書』5、214頁。
- (136) 田中圭一 (1979)『ムカデ山海岸山霊山寺跡』『鳥の神・鳥の佛』Ⅲ、199～200頁。
- (137) 相川町教育委員会 (2002)『金掘り絵馬』『相川町の文化財』平成13年改訂版、64～65頁。
- (138) 佐渡炭の開祖といわれる戸川藤五郎を祀った神社。藤五郎は駿河出身で、永禄年間頃から下相川に住み、谷間の雑木を用いて炭焼きに精を出し、親孝行で人望が厚く、元亀年間に没すると、ほどなく藤五郎権現の名で社殿が造営されたという(新潟県神職会佐渡支部 (1925)『佐渡神社誌』、15頁)。江戸時代以降、金銀山で鉦石精錬業が盛んになり、薪炭の需要が急増すると、古くから炭焼きがおこなわれていた下相川には、藤五郎権現を信仰する製炭業者が多く集まるようになった。
- (139) 相川町 (1927)『神社』『相川町誌』、175頁。
- (140) 相川町町史編纂委員会 (1986)『信仰とくらし』『佐渡相川の歴史』資料集8 相川の民俗Ⅰ、708頁。
- (141) 田中圭一編 (1968)『不動・大日・観音・阿弥陀』『佐渡相川志』、236頁。
- (142) 田中圭一 (1989)『筑波山荘発 佐渡の牛(六)・(八)』『サード』26・28。
- (143) 佐渡郡教育会 (1935)『佐渡年代記』上巻、72頁。
- (144) 佐渡高等学校同窓会 (1986)『佐渡国略記』上巻、237頁。

第4章

- (1) 新浜町の名称が町名につくのは、一町目から四町目の各新浜町のみである。このうち、一町目から三町目については現存しているので、未提出の新浜町とは四町目新浜町であると推測できる。

- (2) 隣接する更正図を接合する作業については、GISソフトの調整機能を使用して行った。その際、現代の各種地理データを参照しながら、基本的にはアフィン変換で明治期地籍のベクタデータを変形させて接合を行った。ただし、山間地のように現代の各種地理データとの齟齬が大きい地域については、アフィン変換のみで明治期地籍のベクタデータを補正することは不可能であった。そのような場合、できうる限り一筆単位で現代の該当する地点を確認した上で、ラバーシート変換と呼ばれる方法によって補正をおこなった。
- (3) 矢田俊文 (2009)『1802年佐渡小川地震と地震史料』『災害と資料』3。
- (4) 石叩町よりも北側についても道路拡幅の計画が存在したが、新たに海側に道路が敷設されたため、拡幅はおこなわれていない。
- (5) 佐渡郡教育会 (1935)『佐渡年代記』。
- (6) 青野季吉 (1942)『佐渡』新風土記叢書3、小山書店。
- (7) 田中圭一 (1968)『佐渡相川志』佐渡高校同窓会。
- (8) 高田備寛 (1929)『佐渡四民風俗』。
- (9) 斎藤長三『佐渡年代記』史林雑誌社、1895～1897年。『佐渡国史』。
- (10) 相川町史編纂委員会 (1983)『海士町・刀根清六家文書』『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書、448頁。
- (11)『佐渡国巡村記』。
- (12) 佐渡郡教育会 (1935)『佐渡年代記』。
- (13) 海士漁師とは海士の親方である。相川では1人の海士漁師に1～3人の海士が所属していた。「あま」は性別によって「海士」と「海女」と書き分けるが、日本海では「海士」と書く場合が多い。相川の場合も「海士」と書くがその人名はすべて女性名である。
- (14) その他は、船大工、銀山大工、木挽、髪結などの職種。
- (15) 相川町史編纂委員会 (1983)『海士町・刀根清六家文書』『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書、544～545頁。
- (16) 相川町史編纂委員会 (1983)『佐和田町・伊藤藤藏家文書』『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書、396～397頁。

第5章

- (1) 田中圭一 (1982)『近世初期の鉦山町一大森と相川』『日本の都市と町—その歴史と現状』雄山閣出版。
- (2) 山口啓二 (1974)『幕藩制成立史の研究』校倉書房。山口啓二 (1993)『鎮国と開国』岩波書店。
- (3) 慶長19年7月14日条。
- (4) 木戸雅寿 (2003)『よみがえる安土城』吉川弘文館。
- (5) 田中圭一 (1986)『佐渡金銀山の史的研究』刀水書房、相川町史編纂委員会編 (1983)『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書ほか。
- (6) 三浦俊明 (1962)『江戸城下町の成立過程』『日本歴史』172。
- (7) 玉井哲雄 (1983)『近世都市と町家』『講座日本技術の社会史』7 建築、日本評論社。
- (8) 前掲註5田中文献。
- (9) 鉦山絵図には写本の可能性が高いものが多く、必ずしも絵図の製作年代=当時の様相ではない点に注意が必要である。
- (10) 坑口前面または周囲に設置された番所で、ひとや物資の出入り、坑内から運び出された鉦石量を検査した。
- (11) 鉦山の経営形態のひとつ。奉行所直営の間歩。用具や器材などを支給する代わりに、産鉦の割合を奉行所側が多とった。
- (12) 鉦山の経営形態のひとつで、請山とも。請主が責任を持ち自己の経費で稼ぐ。産鉦を一定の割合で運上として納めた。
- (13) 相川町教育委員会 (2002)『佐渡金銀山 間歩分布調査・寺社調査報告書』。佐渡市 (2012)『佐渡市寺院建造物悉皆調査報告書』など。
- (14) TEM 研究所 (1985)『図説 佐渡金山』河出書房新社。相川町教育委員会 (1993)『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存対策調査報告書』。佐藤利夫 (1979)『北陸真宗門徒と佐渡金銀山』『日本海地域の歴史と文化』文献出版など。
- (15) 永宮寺松堂著・田中圭一編 (1968)『佐渡相川志』相川町。

(16) 山本修之助編 (1974)『佐渡叢書』第5巻 佐渡叢書刊行委員会。
 (17) 前掲註13 報告書など。
 (18) 19世紀における相川の寺院については「附録 文政九年相川町町墨引」(相川町史編纂委員会 (1983)『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書)、「相川町絵図」(佐渡市提供)などを参照。
 (19) 伊藤毅 (1989)「中世京都と寺院」『日本都市史入門Ⅰ』、東京大学出版会。伊藤毅 (1992)「近世都市と寺院」『日本の近世』9、中央公論社。伊藤毅 (1995)「江戸寺院への視角—近世の巨大都市と寺院—」『年報都市史研究』3、山川出版社。(すべて伊藤毅 (2001)『都市の空間史』吉川弘文館に所収)
 (20) 「相川町古絵図」。
 (21) 浄土真宗寺院の建築形式については前掲註19 伊藤文献を参照。表5—3にみられるように浄土真宗寺院には移動性という特質もあわせもっている。これは「道場」という建築形式と対応する特徴といえ、(4)—iiで若干の検討を加える。
 (22) 前掲註19 伊藤文献。
 (23) 以下、特に断らない限り寺院に関する情報は註15、16 文献を参照。
 (24) とくに長明寺は間ノ山の山師(間ノ山氏+下田氏)、宗岡七左衛門らが有力門徒であり初期的な鉾山と寺との関係が窺える(前掲註14 佐藤論文及び佐藤利夫 (2002)「長明寺」『佐渡相川郷土史辞典』)。この点については最後に(5)で若干の考察を述べる。
 (25) 田中圭一によれば、大超寺十五世剛誉によって作成された「内過去帳」には開基が慶長3年(1598)とある(田中圭一 (2006)「慶長期相川に集まった人びと—相川の寺院調査 中間報告—」『佐渡伝統文化研究所年報』)。本稿では従来の通り元和期の開基と考えた。
 (26) 前掲註16 文献所収の「佐渡志」には「元禄寺社帳」の一部が含まれている。
 (27) 「近世・近代鉾山絵図の描画年代について」(佐渡市作成)より。
 (28) 山本仁 (2002)「総源寺」『佐渡相川郷土史事典』。
 (29) 「三国蓮宗 門精舎田詞 第二十七冊」『浄土宗全書』。文書の末に「元禄拾壹年」とある。
 (30) 宮栄二・山田英雄編 (1986)「佐和田町」『日本歴史地名大系 新潟県の地名』平凡社。
 (31) 前掲註18 文献、「附録 文政九年相川町町墨引」。
 (32) 井上鋭夫 (1981)『山の民・川の民』平凡社。註14 佐藤論文参照。
 (33) 前掲註16 文献。佐藤利夫 (2002)「佐渡国寺社境内案内帳」『蓮光寺』『佐渡相川郷土史辞典』。
 (34) 相川町史編纂委員会 (1983)「相川地区元禄検地帳」『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書。
 (35) 写真撮影史料(佐渡市提供)。
 (36) 前掲註18 文献、「附録 文政九年相川町町墨引」。
 (37) 前掲註34 史料。
 (38) 佐渡市教育委員会 (2008)『佐渡金山遺跡(上相川地区)調査報告書』。
 (39) 本間寅雄 (2002)「清音比丘尼」『柄杓町』『佐渡相川郷土史事典』。
 (40) 東京大学史料編纂所編 (1954)『大日本古記録 梅津政景日記』2、慶長19年7月14日条、岩波書店。
 (41) 佐渡郡教育會 (1935)『佐渡年代記』上巻、慶長9年条。
 (42) 吉田伸之 (1985)「町人と町」『講座日本歴史』5 近世1、東京大学出版会(吉田伸之 (1998)『近世都市社会の身分構造』東京大学出版会に所収)。
 (43) 太田陽子 (1964)「大佐渡沿岸の海岸段丘」『地理学評論』37(5)、226—242頁。
 (44) 田村明子 (1979)「佐渡島の完新世段丘と地殻変動」『地理学評論』52(7)、339—355頁。
 (45) 前掲註44 文献所収図版に基づく。上相川下部については同図を参照し、標高と傾斜度からの推定。
 (46) 相川町史編纂委員会 (2002)『佐渡相川郷土史事典』。
 (47) 佐渡叢書10、266頁
 (48) 前掲註47 文献、266頁

(49) 佐渡市教育委員会 (2008)『佐渡金山遺跡(上相川地区)調査報告書』ほか。
 (50) 佐藤俊策 (1994)「相川・鶴子のやきもの」『第10回全国天領ゼミナール記録集』。
 (51) 前掲註50 文献。
 (52) 郷宿とは、江戸時代、村役人や百姓が公事・訴訟その他の紅葉で城下または代官所へ出向く場合に宿泊する宿屋のこと(『日本国語大辞典』)
 (53) 松尾康弘・大場修 (2011)「佐渡相川・上町の町並みと町家の構成と特徴」『日本建築学会北陸支部研究報告集』54、549—552頁。
 (54) 坂井誠一・土屋敦夫 (1985)「歴史的都市の地図上への復元に関する研究：事例研究—佐渡相川町」『上越教育大学研究紀要』4、327—346頁。
 (55) 相川町教育委員会 (1993)『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存対策調査報告書』。
 (56) 新潟大学都市計画研究室・地理学研究室 (2009)『佐渡相川・笹川の歴史的環境と歴史的建造物』。
 (57) 前掲註53 文献。
 (58) 相川町史編纂委員会 (1973)『佐渡相川の歴史』資料集2 墓と石造物。
 (59) 佐渡市教育委員会 (2004)『佐渡金銀山 相川地区 石造物調査報告書』。
 (60) 佐渡市教育委員会 (2009)『佐渡金銀山 吹上海岸石切場跡調査報告書』。

第6章

(1) 新潟大学都市計画研究室・地理学研究室 (2009)『佐渡相川・笹川の歴史的環境と歴史的建造物』。
 (2) 相川町教育委員会 (1993)『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存対策調査報告書』。
 (3) 相川町企画振興課 (1995)『相川町 HOPE 計画』。
 (4) 佐渡市建設課・相川支所庶務課・金山ロード推進協議会 (2007)『街なみ環境整備事業完了報告書』。
 (5) 田中圭一 (1968)『佐渡相川志』佐渡高校同窓会。
 (6) 相川町教育委員会 (1995)『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』。田中圭一 (1968)『佐渡相川志』新潟県立佐渡高等学校同窓会。相川町史編纂委員会 (1983)『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書など。
 (7) 相川町教育委員会 (1995)『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』。相川町史編纂委員会 (2002)『佐渡相川郷土史辞典』。石井文海筆「天保年間相川十二月月」(新潟県 (1984)『新潟県史資料編』23 民俗・文化財2 民俗編Ⅱに所収)など。
 (8) 相川町史編纂委員会 (1995)『佐渡相川の歴史』通史編 近・現代。
 (9) 2014年4月15日に筆者が佐渡市沢根地区の瓦業者(60代)に対して実施。
 (10) 森知幾編集 (1894)『北溟雑誌』76、北溟社(山本修之助 (1975)『北溟雑誌 第四巻』佐渡叢書別巻、佐渡叢書刊行会に所収)。
 (11) 相川町史編纂委員会 (1986)『佐渡相川の歴史』資料集8 相川の民俗Ⅰ。
 (12) 大庭裕雄・岡崎篤行 (2010)「鉾山町相川における歴史的建造物の残存状況及び外観特性(計画系)」『日本建築学会北陸支部研究報告集』16(33)、693—696頁。
 (13) 新潟大学工学部建設学科都市計画研究室・新潟大学人文学部地理学研究室 (2009)『佐渡相川・笹川の歴史的環境と歴史的建造物』。
 (14) 西村伸也ほか (2005)「列構成と開口幅から見た平面構成とその住まい方—佐渡市両津の町家における室空間構成に関する研究—その1—」『日本建築学会大会学術講演梗概集』285頁。西村伸也ほか (2005)「天井高・ザシキの壁と空間領域形成の仕組み—佐渡市両津の町家における室空間構成に関する研究その2—」『日本建築学会大会学術講演梗概集』287頁。

- (15) 小木町 (1981)『宿根木 伝統的建造物群保存対策調査報告書』。
- (16) 坂井誠一・土屋敦夫 (1985)「歴史的都市の地図上への復元に関する研究：事例研究・佐渡相川町」『上越教育大学研究紀要』4、327～346頁。
- (17) 相川町教育委員会 (1993)『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』。
- (18) 松尾康弘・大場修 (2011)「佐渡相川・上町の町並みと町家の構成と特徴」『日本建築学会北陸支部研究報告集』54、549～552頁。松尾康弘・大場修 (2011)「佐渡・両津湊の町家の特徴と変遷」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2、511～512頁。
- (19) 明治20年(1887)建物台帳は、石扣町、濁川町、長坂町・西坂町、新西坂町、大工町2冊、壱町目2冊、下京町、羽田町、柴町、大間町、水金町、壱町目裏町の14冊がある。
- (20) 昭和4年(1929)家屋台帳は、大間町・栄町、水金町・下相川、羽田町、二町目・五郎左衛門町、自下戸炭屋町・至下戸浜町・鹿伏、新材木町・材木町・板町、新五郎町以上・南沢町・江戸沢町、濁川町・炭屋町・坂下町・下山之神町・紙屋町、三町目・四町目・市町・新濱町、一町目、自下戸町・至下戸浜町、自馬町・至海士町、塩屋町・石扣町・新西坂町・小六町、自長坂町・至上京町、寺院其他15冊がある。
- (21) 中野茂夫・藤川晶樹・河東義之 (2007)「近代における在郷町の都市・建築空間と産業化の影響—茨城県桜川市真壁町を事例として—」、『日本建築学会計画系論文集』621、243～250頁。
- (22) 相川町史編纂委員会 (1973)『佐渡相川の歴史』資料集3、相川町史編纂委員会 (2002)『佐渡相川郷土史事典』などによる。
- (23) 村申仁三郎 (1995)「昭和期における友子制度の変質と解体(一)—三菱鉱業の友子団体調査にみる友子制度の衰退状況—」『法政大学学術機関レポート』。
- (24) 前掲註17文献。
- (25) 大場修 (2004)『近世近代町家建築史論』中央公論美術出版社。
- (26) 嘉永5年(1852)以来、文久4年(1864)、元治2年(1865)、慶応2年(1866)の祈祷札が確認できた。
- (27) 家屋台帳、昭和4年(1929)調整(相川郷土資料館所蔵)。
- (28) To家住宅についてはTEM研究所(1985)『図説佐渡金山』河出書房新社から引用。
- (29) 前掲註18文献。
- (30) 高山恵梨子・岡崎篤行 (2010)「港町両津における歴史的建造物の残存状況および外観特性—湊と夷の町屋を中心とした町並みを対象として—」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-1都市計画、建築経済・住宅問題、731～732頁。西村伸也ほか(2005)「列構成と間口幅からみた平面構成とその住まい方：佐渡市両津の町家における室空間構成に関する研究 その1」『日本建築学会学術講演梗概集』E-2、285～286頁。西村伸也ほか(2005)「天井高・ザシキの壁と空間領域形成の仕組み：佐渡市両津の町家における室空間構成に関する研究 その2」『日本建築学会学術講演梗概集』E-2、287～288頁。
- (31) 相川町史編纂委員会 (1978)『佐渡相川の歴史』資料集7。
- (32) 前掲註25文献。
- (33) 伊藤毅 (2007)『町屋と町並み』山川出版社、33頁。
- (34) 前掲註28参照。
- (35) 前掲註18「佐渡・両津湊の町家の特徴と変遷」文献。
- (36) 京都府教育委員会 (1971)『京都府の民家』6。日向進 (1998)『近世京都の町・町家・町家大工』思文閣出版、28～30頁。
- (37) 赤泊村史編纂委員会 (1982)『赤泊村史』上巻、1頁。下巻、224～241頁。
- (38) 鈴木秀実・岡崎篤行 (2011)「港町赤泊における歴史的建造物の残存状況及び外観特性—塀屋と横屋の町屋の混在した町並みを対象として—」『日本建築学会大会学術講演梗概集』305～306頁。
- (39) 赤泊地区のS家住宅は、調査後1年を待たずに火災に遭い、その後撤去された。
- (40) 観光資源保護財団 (1991)『荒海や佐渡によこたふ天河一天領出雲崎の歴史的遺産—』。
- (41) 樋口雅希ほか (2008)「寺泊の町家における地域特性に関する研究—チャノマの特徴からみる室空間構成の仕組み—」『日本建築学会北陸支部研究報告集』51、305～308頁。渡辺都ほか (2008)「チャノマの特徴から見る新潟県内の妻入り町家—寺泊の町家における地域特性に関する研究 その1—」『日本建築学会学術講演梗概集』E-2』299～300頁。半澤祐介ほか(2008)「チャノマの特徴からみる室空間構成の仕組み—寺泊の町家における地域特性に関する研究 その2—」『日本建築学会学術講演梗概集』E-2、301～302頁。
- (42) I氏(新潟県三島郡出雲崎羽黒町)所蔵図面。(関連研究)横山大樹 西村伸也ほか(2011)「出雲崎の町家の空間構成と住まい方に関する研究 住戸ウラにあるダシダナの使い方と住戸ウラの特徴的な住まい方について」『日本建築学会北陸支部研究報告集』54、359～362頁。
- (43) 西村伸也ほか (1995)「新潟の町家における空間構成の特徴とそのしくみ—高田・白根・栃尾の「ヒアワイ」「ダシアイ」「クイアワセ」の使われ方と共用のしくみ—」『日本建築学会計画系論文集』467、71～79頁。木戸秀一ほか(2003)「新潟県白根市の町家における空間構成の変容に関する研究—町家の変容とそれを支える住まい方について その2—」『日本建築学会学術梗概集』E-2』77～78頁。杉山幸子ほか(2003)「新潟県白根市の町家における空間構成の変容に関する研究—町家の変容とそれを支える住まい方について その2—」『日本建築学会学術梗概集』E-2、79～80頁。
- (44) 前掲註37文献、上巻、156～158頁。
- (45) 前掲註25文献。
- (46) 佐渡市 (2012)『佐渡市寺院建造物悉皆調査報告書』。

第7章

- (1) 佐渡市教育委員会 (2008)『旧佐渡金山近代化遺産建造物群調査報告書』。
- (2) 吉田伸之・伊藤毅編 (2010)『伝統都市』1～4、東京大学出版会。

参考文献

第2章

- 相川町教育委員会 (1975) 『相川の文化財』
相川町教育委員会 (2002) 『相川町の文化財』改訂版
相川町史編纂委員会 (1995) 『相川の歴史』通史編 近・現代
池畑悦伸 (2006) 『写真でわかるシダ図鑑』トンボ社
伊藤邦男 (1992) 『佐渡葉草風土記』佐渡の植物刊行会
太田金右衛門 (1978) 『日本帝國郵便線路國郡全圖』2
坂井定倫・大場実 (1970) 『佐渡鉾山の地質鉾床』『鉾山地質』20 (100)、149～165頁
笹川通博 (2001) 『新潟県佐渡における植物分布図集 暖温帯性常緑植物』新潟県植物分布調査収録4、新津植物資料室
笹川通博 (2003) 『新潟県佐渡における植物分布図集 日本海要素の植物』新潟県植物分布調査収録7、新津植物資料室
笹川通博 (2004) 『新潟県佐渡における植物分布図集 高山、深山の植物』新潟県植物分布調査収録8、新津植物資料室
笹川通博 (2005) 『新潟県佐渡における植物分布図集 分布上特徴のある植物』新潟県植物分布調査収録9、新津植物資料室
佐竹義輔ほか (1999) 『日本の野生植物』草本 [I] 単子葉類、平凡社
佐竹義輔ほか (1999) 『日本の野生植物』草本 [II] 離弁花類、平凡社
佐竹義輔ほか (1999) 『日本の野生植物』草本 [III] 合弁花類、平凡社
佐竹義輔ほか (1999) 『日本の野生植物』木本 [I]、平凡社
佐竹義輔ほか (1999) 『日本の野生植物』木本 [II]、平凡社
佐竹義輔ほか (1999) 『日本の野生植物』シダ編、平凡社
佐渡市教育委員会 (2011) 『佐渡市歴史文化基本構想』
佐渡市教育委員会 (2012) 『佐渡島環境大全 改訂版』佐渡市環境教育副読本指導書
佐渡の植物刊行会 (1982) 『南佐渡小木の植物』佐渡の植物 1
佐渡の植物刊行会 (1984) 『佐渡植物ガイド』佐渡の植物 2
佐渡の植物刊行会 (1987) 『佐渡植物民俗誌』佐渡の植物 3
佐渡の植物刊行会 (1987) 『佐渡植物誌』佐渡の植物 4
佐渡の植物刊行会 (1990) 『佐渡植物風土記』佐渡の植物 5
佐渡の植物刊行会 (1990) 『佐渡植物歳時記』佐渡の植物 6
佐和田町教育委員会 (1977) 『佐和田町史』通史編 I
島津光夫ほか (1973) 『佐渡島の地質構造発達と火成活動』『地質学論集』第9号、147～157頁
田中圭一 (1968) 『佐渡相川志』
坪谷幸六 (1937) 『佐渡相川鑛山の地質及び鑛床』『地質学雑誌』44 (521)、103～120頁
TEM 研究所 (1985) 『図説佐渡金山』ゴールデン佐渡
新潟県 (1994) 『土地分類基本調査 佐渡島』
新潟の自然刊行委員会 (1972) 『新潟の自然』2
玉川大学出版部編 (1978) 『玉川新百科 10 植物』誠文堂新光社
籠三郎 (1956) 『佐渡金銀山史話』丸善
本間健一郎 (2002) 『新潟県佐渡における植物分布図集 佐渡島の植物 (羊歯・種子植物)』新潟県植物分布調査収録5、新津植物資料室
本間滯子 (2003) 『史料にみる佐渡の葉草』『第18回全国天領ゼミナール記録集』
宮脇昭編 (2010) 『日本の植生』学習研究社
佐渡厚生農業協同組合連合会 (2001) 『佐渡の医療史』『佐渡病院のあゆみ—佐渡厚生連史』

第3章

- 佐渡市立相川郷土博物館 (1980) 『佐渡・相川の織物』
佐渡市立相川郷土博物館 (1991) 『三浦常山』

- 佐渡市立相川郷土博物館 (2002) 『初代三浦常山と無名異焼』
相川小学校創立百周年記念誌編集委員会 (1973) 『相川の百年』
相川町教育委員会 (2001) 『佐渡金銀山遺跡 (佐渡奉行所跡)』
相川町史編纂委員会 (1983) 『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書
相川町史編纂委員会 (1986) 『佐渡相川の歴史』資料集8 相川の民俗 I
相川町史編纂委員会 (1995) 『佐渡相川の歴史』通史編 近・現代
相川町史編纂委員会 (2002) 『佐渡相川郷土史事典』
磯部欽三 (1991) 『佐渡金山』中央公論社
岩木擴 (1918) 『相川町誌』相川町教育会
永宮寺松堂著・田中圭一編 (1968) 『佐渡相川志』舟崎文庫
大蔵省 (1931) 『工部省沿革報告』『明治前期財政経済史料集成』17、改造社
工学会 (1994) 『明治工業史』鉱業編、竜溪書舎
小風秀雅 (2010) 『佐渡金銀山の歴史的価値に関する歴史学的・史料学的研究』2009年度調査報告書』お茶の水女子大学
小風秀雅 (2011) 『佐渡金銀山の歴史的価値に関する歴史学的・史料学的研究』2010年度調査報告書』お茶の水女子大学
小風秀雅 (2012) 『佐渡金銀山の歴史的価値に関する歴史学的・史料学的研究』2011年度調査報告書』お茶の水女子大学
小風秀雅 (2013) 『佐渡金銀山の歴史的価値に関する歴史学的・史料学的研究』2012年度調査報告書』お茶の水女子大学
佐藤利夫 (2005) 『裂織』法政大学出版局
佐渡市教育委員会 (2008) 『佐渡金銀山 佐渡金山遺跡 (上相川地区) 調査報告書』
佐渡市教育委員会 (2008) 『旧佐渡鉾山近代化遺産建造物群調査報告書』
佐渡地理研究会 (1976) 『海岸段丘の成立』『佐渡誌—島の風土とくらし—』
鈴木淳 (1999) 『新技術の社会誌』中央公論新社
田中圭一 (1970) 『佐渡金山史』中村書店
田中圭一 (1980) 『佐渡金山』教育社
田中圭一 (1984) 『佐渡金銀山文書の読み方・調べ方』雄山閣出版
田中圭一 (1985) 『天領佐渡』刀水書房
田中圭一 (1986) 『佐渡金銀山の史的研究』刀水書房
TEM 研究所 (1985) 『図説佐渡金山』河出書房新社
新潟県史編さん委員会 (1985) 『新潟県史』通史編3 近世1
新潟県史編さん委員会 (1987) 『新潟県史』通史編4 近代1
新潟県史編さん委員会 (1988) 『新潟県史』通史編5 近世2
新潟県史編さん委員会 (1988) 『新潟県史』通史編6 近代2
新潟県史編さん委員会 (1988) 『新潟県史』通史編7 近世3
萩野由之 (1927) 『佐渡人物志』佐渡郡教育会刊
籠三郎 (1956) 『佐渡金銀山史話』三菱金属鉱業
本間嘉晴監修 (1998) 『佐渡の歴史』郷土出版社
本間滯子 (1985) 『文政期相川町民の職業と生活』『歴史手帖』141
山本幸作 (1937) 『佐渡名勝史』山本商会出版部
山本幸作 (1940) 『佐渡の史蹟繪譚』山本商会出版部
山本修之助 (1972) 『佐渡の百年』佐渡の百年刊行会
山本修之助 (1957) 『佐渡廃寺始末』『佐渡叢書』1、佐渡叢書刊行会
山本仁・本間寅雄編 (1996) 『佐渡流人史』郷土出版社刊
山本仁・田中圭一・本間滯子編 (2005) 『佐渡江戸時代史年表』佐渡史学会
『佐州相川畧図—相川八景その中にあり』岩木文庫蔵

第4章

- 青野季吉 (1942) 『佐渡』新風土記叢書3、小山書店

第5章

- 相川町史編纂委員会（1983）『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書
- 相川町教育委員会（1993）『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』
- 相川町史編纂委員会（1973）『佐渡相川の歴史』資料集2 墓と石造物
- 伊藤毅（1993）「相川の原点・上相川」『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』
- 岩本擴（1927）『相川町誌』相川町教育会
- 永宮寺松堂（田中圭一編）（1968）『佐渡相川志』舟崎文庫
- 小葉田淳（1968）『日本鉱山史の研究』岩波書店
- 金井透（1993）「鉱山町・相川」『図集日本都市史』東京大学出版会
- 黒川金山遺跡研究会（1997）『甲斐黒川金山 山梨県塩山市に所在する戦国時代金山遺跡の総合調査』塩山市・塩山市教育委員会
- 佐藤俊策（1994）「相川・鶴子のやきもの」『第10回全国天領ゼミナール記録集』
- 佐渡高等学校同窓会（1986）『佐渡国略記』上巻（復刻）
- 佐渡高等学校同窓会（1986）『佐渡国略記』下巻（復刻）
- 佐渡市教育委員会（2004）『佐渡金銀山 相川地区 石造物調査報告書』
- 佐渡市教育委員会（2008）『佐渡金山遺跡（上相川地区）調査報告書』
- 佐渡市教育委員会（2010）『鶴子銀山跡分布調査報告書』
- 佐渡市教育委員会（2009）『佐渡金銀山 吹上海岸石切場跡調査報告書』
- 佐渡市世界遺産推進課（2012）『史跡佐渡金山遺跡保存管理計画策定書』第I期
- 佐渡市教育委員会（2014）『佐渡金山遺跡（相川金銀山跡）分布調査報告書』
- 宗書保存会（1928）「三国蓮宗 門精舎旧詞 第二十七冊」『続浄土宗全書』18
- 田中圭一編（1968）『佐渡相川志』佐渡高等学校同窓会
- TEM 研究所（1985）『図説佐渡金山』河出書房新社
- 永井次芳（1974）『佐渡風土記』臨川書店

新潟大学都市計画研究室・地理学研究室（2009）『佐渡相川・笹川の歴史的環境と歴史的建造物』

- 西川明雅・原田久通（1974）『佐渡年代記』佐渡郡教育会
- 文化財保存計画協会（1995）「金山遺跡の分布概略図」『史跡佐渡金山遺跡保存管理計画策定書』相川町教育委員会
- 松尾康弘・大場修（2011）「佐渡相川・上町の町並みと町家の構成と特徴」『日本建築学会北陸支部研究報告集』54
- 山口啓二（1974）『幕藩成立史の研究』校倉書房
- 山本喜太郎（1990）『私見 下相川の成立について』私家版
- 山本修之助（1974）「佐渡国寺社境内案内帳」『佐渡叢書』5、佐渡叢書刊行会
- 山本修之助編（1974）「佐渡志」『佐渡叢書』5、佐渡叢書刊行会
- 山本修之助編（1977）「佐渡四民風俗」『佐渡叢書』8、佐渡叢書刊行会

第6章

- 相川町教育委員会（1995）『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』
- 相川町史編纂委員会（1973）『佐渡相川の歴史』資料集2 墓と石造物
- 相川町史編纂委員会（1983）『佐渡相川の歴史』資料集5 二見・相川近世文書
- 相川町史編纂委員会（1995）『佐渡相川の歴史』通史編 近・現代
- 相川町史編纂委員会（2002）『佐渡相川郷土史辞典』
- 磯部欣三（1972）『佐渡歴史散歩 金山と流人の光と影』創元社
- 大場修・杉山裕里沙（2011）『2011年度佐渡市相川地区鉱山住宅調査概要』京都府立大学、私家版
- 佐渡市（2014）『佐渡金銀山 相川金銀山跡分布調査報告書』
- 佐渡市教育委員会（2006）『佐渡無名異焼』資料集成
- 田中圭一（1968）『佐渡相川志』県立佐渡高等学校同窓会
- TEM 研究所（1985）『図説佐渡金山』河出書房新社
- 新潟大学工学部建設学科都市計画研究室・新潟大学人文学部地理学研究室（2009）『佐渡相川・笹川の歴史的環境と歴史的建造物』

図版出典

全覧図

奈良文化財研究所景観研究室監修、北野陽子作画

巻頭図版

- A 杉本和樹撮影
- B 杉本和樹撮影
- C 杉本和樹撮影
- D 杉本和樹撮影
- E 杉本和樹撮影
- F 杉本和樹撮影
- G 杉本和樹撮影
- H 杉本和樹撮影
- I 杉本和樹撮影
- J 杉本和樹撮影
- K 杉本和樹撮影
- L 杉本和樹撮影
- M 杉本和樹撮影
- N 奈良文化財研究所景観研究室撮影
- O 奈良文化財研究所景観研究室撮影

第1章

- 図1-1 統計資料を元に奈良文化財研究所作成
- 図1-2 統計資料を元に奈良文化財研究所作成
- 図1-3 奈良文化財研究所作成（ベースマップ：国土地理院数値地図25000（地図画像）『長岡』）
- 図1-4 奈良文化財研究所作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
- 表1-1 奈良文化財研究所景観研究室作成

第2章

- 図2-1 筆者撮影
- 図2-2 筆者撮影
- 図2-3 （新潟県1994）所収の地形分類図をもとに、現地調査を踏まえて筆者作成
- 図2-4 筆者撮影
- 図2-5 筆者撮影
- 図2-6 （新潟県1994）所収の表層地質図をもとに筆者作成
- 図2-7 筆者作成
- 図2-8 新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室所蔵
- 図2-9 筆者作成（ベースマップ：国土地理院数値地図25000（地図画像）『長岡』）
- 図2-10 （佐渡の植物刊行会1990）を再トレース
- 図2-11 （笹川2001）を再トレース・一部改変
- 図2-12 （笹川2001）を再トレース・一部改変
- 図2-13 （笹川2001）を再トレース・一部改変
- 図2-14 （笹川2005）を再トレース・一部改変
- 図2-15 （笹川2005）を再トレース・一部改変
- 図2-16 （太田1878）、東京大学史料編纂所所蔵
- 図2-17 （佐渡市教育委員会2011）40頁所収
- 図2-18 国勢調査資料をもとに筆者作成
- 表2-1 気象庁気象統計情報をもとに筆者作成
- 表2-2 筆者作成
- 表2-3 （相川町史編纂委員会1995）434頁所収の表を一部改変
- 表2-4 （相川町史編纂委員会1995）435頁所収の表を一部改変

第3章

- 図3-1 筆者作成（佐渡市世界遺産推進課撮影）
- 図3-2 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-3 佐渡市世界遺産推進課所蔵（小川忠博撮影）
- 図3-4 佐渡市世界遺産推進課所蔵
- 図3-5 佐渡市世界遺産推進課撮影
- 図3-6 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-7 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-8 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-9 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-10 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-11 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-12 筆者作成
- 図3-13 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図3-14 佐渡市教育委員会所蔵
- 図3-15 佐渡市教育委員会所蔵（味方家文書）
- 図3-16 内閣文庫（国立公文書館）所蔵
- 図3-17 個人蔵
- 図3-18 個人蔵
- 図3-19 筆者撮影
- 図3-20 筆者撮影
- 図3-21 筆者撮影
- 図3-22 筆者作成（ベースマップ：株式会社ゴールデン佐渡所蔵）
- 図3-23 佐渡市世界遺産推進課所蔵
- 図3-24 佐渡市世界遺産推進課所蔵
- 図3-25 筆者作成（ベースマップ：佐渡市世界遺産推進課作成地形図）
- 図3-26 個人蔵
- 図3-27 個人蔵
- 図3-28 岩本文庫所蔵
- 図3-29 大安寺所蔵
- 図3-30 大安寺所蔵
- 図3-31 大安寺所蔵
- 図3-32 大安寺所蔵
- 図3-33 大安寺所蔵
- 図3-34 大安寺所蔵
- 図3-35 大安寺所蔵
- 図3-36 大安寺所蔵
- 図3-37 佐渡市観光統計等をもとに筆者作成
- 図3-38 1・2：（山本1937）、3：（山本1940）所収
- 図3-39 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-40 筆者作成
- 図3-41 筆者作成
- 図3-42 筆者作成
- 図3-43 筆者作成
- 図3-44 筆者作成
- 図3-45 筆者作成
- 図3-46 本間孝撮影、佐渡市立両津郷土博物館所蔵
- 図3-47 佐藤利夫撮影、佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-48 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図3-49 筆者作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
- 図3-50 奈良文化財研究所景観研究室撮影
- 図3-51 個人蔵
- 図3-52 奈良文化財研究所景観研究室撮影
- 図3-53 奈良文化財研究所景観研究室撮影

- 表3-1 筆者作成
- 表3-2 筆者作成
- 表3-3 (本間 1985) 所収の表をを一部改変
- 表3-4 筆者作成
- 表3-5 筆者作成
- 表3-6 (相川町史編纂委員会 1983) 681 頁をもとに筆者作成・一部改編
- 表3-7 (佐渡地理研究会 1976) 176 頁所収第7表をもとに筆者作成・一部改編
- 表3-8 (佐渡地理研究会 1976) 170 頁所収第4表をもとに筆者作成・一部改編
- 表3-9 筆者作成
- 表3-10 筆者作成
- 表3-11 筆者作成
- 表3-12 筆者作成
- 表3-13 筆者作成
- 表3-14 筆者作成
- 表3-15 筆者作成
- 表3-16 筆者作成
- 表3-17 筆者作成
- 表3-18 筆者作成

第4章

- 図4-1 長岡市立中央図書館所蔵
- 図4-2 筆者作成
- 図4-3 筆者作成
- 図4-4 筆者作成
- 図4-5 個人蔵
- 図4-6 佐渡市相川支所所蔵
- 図4-7 筆者作成
- 図4-8 筆者作成
- 図4-9 佐渡市相川支所所蔵
- 図4-10 筆者作成
- 図4-11 筆者作成
- 図4-12 筆者作成
- 図4-13 筆者作成
- 図4-14 筆者作成
- 図4-15 新潟県発注、アジア航測撮影・所蔵 (奈良文化財研究所寄託)
- 図4-16 個人蔵
- 図4-17 筆者撮影
- 図4-18 筆者撮影
- 図4-19 筆者作成
- 図4-20 筆者作成
- 図4-21 筆者作成
- 図4-22 筆者作成
- 図4-23 筆者作成
- 図4-24 筆者作成
- 図4-25 筆者作成
- 図4-26 筆者作成
- 図4-27 杉本和樹撮影
- 図4-28 杉本和樹撮影
- 図4-29 筆者作成
- 図4-30 筆者作成
- 図4-31 筆者作成 (ベースマップ:「相川町都市計画図」1:2500)
- 図4-32 筆者撮影
- 図4-33 筆者撮影
- 図4-34 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 表4-1 筆者作成
- 表4-2 筆者作成

第5章

- 図5-1 (佐渡市教育委員会 2008) 所収
- 図5-2 (佐渡市教育委員会 2010) 所収
- 図5-3 株式会社ゴールデン佐渡所蔵
- 図5-4 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図5-5 (佐渡市世界遺産推進課 2012) 所収図を一部改変
- 図5-6 長岡市立中央図書館所蔵
- 図5-7 佐渡市所蔵 (永井家寄贈資料)
- 図5-8 長岡市立中央図書館所蔵
- 図5-9 個人蔵
- 図5-10 個人蔵
- 図5-11 佐渡市所蔵 (永井家寄贈資料)
- 図5-12 長岡市立中央図書館所蔵
- 図5-13 株式会社ゴールデン佐渡所蔵
- 図5-14 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図5-15 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図5-16 個人蔵
- 図5-17 新潟県立図書館寄託/佐渡高等学校同窓会所蔵
- 図5-18 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
- 図5-19 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-20 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-21 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-22 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-23 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-24 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-25 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-26 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-27 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-28 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-29 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-30 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-31 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-32 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-33 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-34 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-35 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-36 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-37 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-38 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-39 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-40 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-41 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-42 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-43 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-44 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-45 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-46 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-47 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-48 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-49 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-50 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-51 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-52 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-53 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-54 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-55 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-56 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-57 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 図5-58 奈良文化財研究所景観研究室作成

図5-59 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図5-60 筆者作成
 図5-61 筆者作成
 図5-62 筆者作成
 図5-63 筆者作成
 図5-64 相川郷土資料館所蔵
 図5-65 筆者作成
 図5-66 個人蔵
 図5-67 筆者作成
 図5-68 筆者作成
 図5-69 個人蔵
 図5-70 株式会社ゴールドデン佐渡所蔵
 図5-71 筆者作成
 図5-72 筆者作成
 図5-73 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図5-74 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図5-75 筆者作成 (ベースマップ:「相川町都市計画図」1:2500)
 図5-76 筆者作成
 図5-77 筆者作成
 図5-78 筆者作成
 図5-79 筆者作成
 図5-80 筆者作成
 図5-81 筆者作成
 図5-82 筆者作成
 図5-83 筆者作成
 図5-84 筆者作成
 図5-85 筆者撮影
 図5-86 筆者撮影
 図5-87 筆者撮影
 図5-88 筆者撮影
 図5-89 筆者作成
 図5-90 明治21年(1888)地割及び土地台帳をもとに筆者作成
 図5-91 筆者作成
 図5-92 筆者撮影
 図5-93 筆者撮影
 図5-94 筆者撮影
 図5-95 筆者作成
 図5-96 筆者作成
 図5-97 筆者作成
 図5-98 筆者作成
 図5-99 筆者作成
 図5-100 筆者撮影
 図5-101 筆者撮影
 図5-102 筆者撮影
 図5-103 筆者撮影
 図5-104 筆者撮影
 図5-105 筆者撮影
 図5-106 佐渡市世界遺産推進課所蔵
 図5-107 筆者撮影
 図5-108 筆者作成
 図5-109 筆者作成
 図5-110 筆者作成
 図5-111 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
 図5-112 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
 図5-113 筆者作成
 図5-114 筆者作成
 図5-115 筆者作成
 図5-116 筆者作成
 図5-117 筆者作成
 図5-118 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成

図5-119 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-120 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-121 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-122 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-123 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-124 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-125 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-126 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-127 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-128 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-129 東京大学大学院工学系研究科伊藤研究室作成
 図5-130 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-131 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-132 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-133 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-134 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-135 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-136 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-137 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-138 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図5-139 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図5-140 奈良文化財研究所景観研究室作成
 表5-1 筆者作成
 表5-2 筆者作成
 表5-3 (山本1974)及び(田中1968)をもとに筆者作成
 表5-4 (宗書保存会1928)及び(山本1974)もとに筆者作成
 表5-5 (山本1974)及び(田中1968)をもとに筆者作成
 表5-6 「安政五年屋敷帳」(佐渡市提供写真史料)及び(相川町史編纂委員会1983)をもとに筆者作成
 表5-7 筆者作成
 表5-8 文政期の墨引帳(1826)、安政5年(1858)の屋敷帳、明治20年(1887)の建物台帳、昭和4年(1929)の家屋台帳、佐渡市提供の現在の建物に関するデータを用い筆者作成
 表5-9 佐渡市提供データをもとに筆者作成
 表5-10 奈良文化財研究所景観研究室作成

第6章

図6-1 筆者作成
 図6-2 筆者作成
 図6-3 筆者作成
 図6-4 筆者撮影
 図6-5 筆者撮影
 図6-6 筆者撮影
 図6-7 筆者撮影
 図6-8 筆者撮影
 図6-9 筆者撮影
 図6-10 筆者撮影
 図6-11 筆者撮影
 図6-12 筆者撮影
 図6-13 筆者撮影
 図6-14 筆者撮影
 図6-15 杉本和樹撮影
 図6-16 筆者作成
 図6-17 佐渡市世界遺産推進課所蔵
 図6-18 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図6-19 杉本和樹撮影
 図6-20 杉本和樹撮影
 図6-21 佐渡市世界遺産推進課所蔵
 図6-22 筆者撮影
 図6-23 個人蔵

- 図6-24 筆者撮影
 図6-25 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
 図6-26 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
 図6-27 佐渡市立相川郷土博物館所蔵
 図6-28 筆者撮影
 図6-29 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図6-30 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図6-31 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図3-32 筆者撮影
 図3-33 筆者撮影
 図6-34 筆者作成（ベースマップ：ASTER-GDEM 画像（経済産業省及びNASA 作成）を ArcGIS で陰影加工）
 図6-35 筆者作成
 図6-36 筆者作成（ベースマップ：国土地理院数値地図 25000（地図画像）『長岡』）
 図6-37 筆者作成
 図6-38 筆者作成
 図6-39 筆者作成
 図6-40 筆者作成
 図6-41 筆者作成
 図6-42 筆者作成
 図6-43 筆者作成
 図6-44 筆者作成
 図6-45 筆者作成
 図6-46 筆者作成
 図6-47 筆者作成
 図6-48 筆者作成
 図6-49 京都府立大学大場研究室作成
 図6-50 筆者撮影
 図6-51 筆者撮影
 図6-52 京都府立大学大場研究室作成
 図6-53 京都府立大学大場研究室作成
 図6-54 京都府立大学大場研究室作成
 図6-55 京都府立大学大場研究室作成
 図6-56 京都府立大学大場研究室作成
 図6-57 京都府立大学大場研究室作成
 図6-58 京都府立大学大場研究室作成
 図6-59 京都府立大学大場研究室作成
 図6-60 京都府立大学大場研究室作成
 図6-61 筆者撮影
 図6-62 京都府立大学大場研究室作成
 図6-63 京都府立大学大場研究室作成
 図6-64 京都府立大学大場研究室作成
 図6-65 筆者撮影
 図6-66 筆者撮影
 図6-67 京都府立大学大場研究室作成
 図6-68 筆者撮影
 図6-69 京都府立大学大場研究室作成
 図6-70 筆者撮影
 図6-71 京都府立大学大場研究室作成
 図6-72 筆者撮影
 図6-73 (TEM 研究所 1985) を再トレース
 図6-74 筆者撮影
 図6-75 京都府立大学大場研究室作成
 図6-76 筆者撮影
 図6-77 京都府立大学大場研究室作成
 図6-78 京都府立大学大場研究室作成
 図6-79 京都府立大学大場研究室作成
 図6-80 筆者撮影
 図6-81 筆者撮影
 図6-82 筆者作成
 図6-83 京都府立大学大場研究室作成
 図6-84 京都府立大学大場研究室作成
 図6-85 京都府立大学大場研究室作成
 図6-86 京都府立大学大場研究室作成
 図6-87 京都府立大学大場研究室作成
 図6-88 京都府立大学大場研究室作成
 図6-89 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図6-90 筆者撮影
 図6-91 筆者撮影
 図6-92 (株)グリーンシグマ作成
 図6-93 筆者撮影
 図6-94 (株)グリーンシグマ作成
 図6-95 筆者撮影
 図6-96 (株)グリーンシグマ作成
 図6-97 筆者撮影
 図6-98 (株)グリーンシグマ作成
 図6-99 筆者撮影
 図6-100 (株)グリーンシグマ作成
 図6-101 筆者撮影
 図6-102 (株)グリーンシグマ作成
 図6-103 筆者撮影
 図6-104 (株)グリーンシグマ作成
 図6-105 筆者撮影
 図6-106 (株)グリーンシグマ作成
 図6-107 筆者撮影
 図6-108 筆者撮影
 図6-109 筆者撮影
 図6-110 筆者撮影
 図6-111 筆者撮影
 図6-112 筆者撮影
 図6-113 筆者撮影
 図6-114 筆者撮影
 図6-115 筆者撮影
 図6-116 筆者撮影
 図6-117 筆者撮影
 図6-118 筆者撮影
 表6-1 筆者作成
 表6-2 筆者作成
 表6-3 筆者作成
 表6-4 筆者作成

第7章

- 図7-1 奈良文化財研究所景観研究室作成
 図7-2 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図7-3 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
 図7-4 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
 図7-5 小野良彦撮影
 図7-6 杉本和樹撮影
 図7-7 杉本和樹撮影
 図7-8 小野良彦撮影
 図7-9 杉本和樹撮影
 図7-10 杉本和樹撮影
 図7-11 杉本和樹撮影
 図7-12 奈良文化財研究所景観研究室撮影
 図7-13 西山芳一撮影
 図7-14 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）

- 図7-15 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
- 図7-16 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：佐渡市世界遺産推進課作成地形図）
- 図7-17 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：佐渡市世界遺産推進課作成地形図）
- 図7-18 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
- 図7-19 杉本和樹撮影
- 図7-20 杉本和樹撮影
- 図7-21 奈良文化財研究所景観研究室撮影
- 図7-22 西山芳一撮影
- 図7-23 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
- 図7-24 奈良文化財研究所景観研究室作成（ベースマップ：「相川町都市計画図」1：2500）
- 表7-1 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 表7-2 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 表7-3 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 表7-4 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 表7-5 奈良文化財研究所景観研究室作成

- 表7-6 奈良文化財研究所景観研究室作成
- 表7-7 奈良文化財研究所景観研究室作成

巻末コラム

- (1) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成
- (2) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成
- (3) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成
- (4) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成
- (5) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成
- (6) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成
- (7) 新潟県世界遺産登録推進室、佐渡市世界遺産推進課、奈良文化財研究所景観研究室作成

表紙古写真

佐渡市世界遺産推進課所蔵（撮影：佐藤利夫ほか）

Survey Report on the Mining Town Landscape of Aikawa in Sado

Published in 2014 by the World Heritage Inscription Promotion Section, Sado City Government

Edited by Yoshito Kikuchi, Atsuo Wakabayashi, Yukari Yamaguchi and Hiroyuki Watanabe, Cultural Landscape Section,
Nara National Research Institute for Cultural Properties (NRICP-Nara), and the World Heritage Inscription Promotion Section,
Sado City Government

Foreword

Chapter1	Purpose and Outline of the Survey <i>(The Cultural Landscape Section, NRICP-Nara and the World Heritage Inscription Promotion Section, Sado City Government)</i>
1	Purpose of the Survey and Summary of the Survey Area
2	Organization of the Survey and Composition of This Report
3	Survey Process
4	Terms and Meanings Used in This Report
Chapter2	Natural, Cultural, and Social Environment
1	Natural Base <i>(Hiroko EDANI)</i>
2	Veins of Gold and Silver <i>(Hiroyuki WATANABE)</i>
3	Ecosystem and Flora <i>(Mutsuo HOJO)</i>
4	Distribution System, Comings and Goings, and Population Change <i>(Yoshito KIKUCHI)</i>
5	Summary <i>(Cultural Landscape Section, NRICP-Nara)</i>
Chapter3	History and Local Culture
1	Industrial and Social History <i>(Yumiko ODA, Akihiko YOGO, Hiroshi HAMANO, Atsuo WAKABAYASHI, Osami YAMAMOTO and Yoshito KIKUCHI)</i>
2	Inhabitants' lives and Local Culture <i>(Noriko YANAGIDAIRA and Tetsuo IKEDA)</i>
3	Summary <i>(Cultural Landscape Section, NRICP-Nara)</i>
Chapter4	Historical Transition of Land Use and Spatial Relations
1	Land Use after the 17th century <i>(Takehiko HORI)</i>
2	Rice Field Development and Forest Fuels Use in Marine Terrace Area <i>(Hiroko EDANI)</i>
3	Interrelationships between Mining Area, Town Area, and Farm Land <i>(Hiroko EDANI)</i>
4	Summary <i>(Cultural Landscape Section, NRICP-Nara)</i>

Chapter5	Structure and Historical Transition of the Mining Town in Aikawa	
1	Formation and Historical Transition of the Mining Town in Aikawa	<i>(Takeshi ITO, Ryo USAMI, Shigeatsu SHIMIZU and Motoki TAKAHASHI)</i>
2	Structure of the Mining Town in Aikawa	<i>(Mizuki FUKUMURA, Kosei Hatsuta, Shun-ichiro HACHIGA, Shunsuke NAKAMURA, Junichi MATSUMOTO and (Cultural Landscape Section, NRICP-NARA)</i>
3	Summary	<i>(Cultural Landscape Section, NRICP-Nara)</i>
Chapter6	Townscape and Architecture of Aikawa	
1	Townscape and Residential Architecture	<i>(Atsuyuki OKAZAKI, Hiromasa OBA and Yukari YAMAGUCHI)</i>
2	Traditional Residential Architecture and Buddhist and Shinto Architecture	<i>(Osamu OBA and Kan-ichi YAMAZAKI)</i>
3	Summary	<i>(Cultural Landscape Section, NRICP-Nara)</i>
Chapter7	Essential Values of the Mining Town Landscape of Aikawa in Sado	<i>(Cultural Landscape Section, NRICP-Nara)</i>
1	Characteristics of the Ecosystem, History, Livelihoods and Industries	
2	Units of the Cultural Landscape	
3	Components of the Cultural Landscape	
4	Essential Values of the Mining Town Landscape of Aikawa in Sado	